

第八回大会記事

本会第八回大会は、去る十一月二十六日、弘前大学教
育学部に於て開催された。三十余名の参加者があつて、
堅固であつた。

当日の行事は左の通りである。

「研究発表会、午前九時 於二の二教室」

「野山地戦争について」

野山地高松 櫻庭 秀良

「青森新聞に關する若干の資料」

弘前阿部中三郎 橋本 正信

「岩木山麓地層調査を終つて」

弘前大等 村越 潔

「第三」廿七回回除幕方學者會議に出席して」

弘前大等 虎尾 俊哉

「研究発表会、午後一時三〇分、於會議室」

「第一」 會 (午後一時三〇分)

「研究発表報告」

「研究発表」

「その他」

◎座談會(午後二時三〇分 於會議室)

研究発表はいずれも郷土に取材したもので、三氏の充
實した研究は参加者に多大の感銘を与え、虎尾氏の訪米
報告はカラースライドを使用したユモアに富みのも
ので大会の雰囲気を一層豊かにした。

総会は宮崎宏長の挨拶後、議長に教養部羽賀教授を差
へ、庶務會計報告が承認され、規約にもとずき、新役
員の選出となつたが、満場一致で現会長の重任が決ま
つた。新会長より、会の発展と充實を期するため、副会長
制が提議になり、これまた、満場一致で、規約才三条に
「副会長 二名」を加えることになり、教養部羽賀と
部教授、教養部虎尾俊哉教授が選任された。なお、委
員は重任の上、更に若干名を加える事も承認された。

座談會は、本会編集に在る「青森県の歴史」の批評を
中心に行つた。県内マズトビラが教員向も読いたが
此を機に、批判をいたした。反省のために用いたとこ
ろ、最初から討論が活発で、司會者は時間不足のために
困つたほどであり、今後のために貴重な資料となつた。
閉會にあたり、虎尾新副会から「青森県の歴史」は充
くよまれて居り、我々は一層の努力をしたいと述べた。